

社説

校内禁煙を当たり前に

たばこと健康

校内での喫煙はまかりならないという取り組みを、和歌山県が県内すべての公立学校で今春から実施している。この試みを禁煙運動にとどまらず、健康教育に発展させていく取り組みとらえたい。

和歌山県は、平成十二年度に健康で健全な県民を目指し、「元氣和歌山行動計画」を策定。これを受けてたばこ対策指針を示し、「学校敷地内禁煙」に踏み切った。

校内禁煙が打ち出されると、愛煙家の教師から当然のように不満の声が出た。だが、一年余りの準備期間を経て今年四月、公立の全小中高校五百十一校から喫煙が姿を消した。

日本たばこ産業(JTI)の一年前の調査によると、成人でたばこを吸う人の割合は三分の一弱で、

六年連続減少している。ところが、未成年の喫煙は増加傾向にある。静岡県内では医師を含む市民レベルのこともをタバコから守る会が昨年発足し、子供の禁煙対策に立ち上がった。志太榛原健康センターは、管内の小中学校で喫煙実態調査を実施して、注意を喚起している。

和歌山県の取り組みを本県に持ち込めば、こつした子供たちの喫煙対策はもちろぬ、健康教育や生活マナーの向上など、幅広い効果が期待できる。

喫煙は吸っている人だけでなく、周りの人たちの健康に害を及ぼす受動喫煙が指摘されている。禁煙運動を展開するのは、自分と同じレベルで周囲の健康を気遣う気配りを植え付けることに役立つ。

地域を限定して路上喫煙を禁止する条例を、東京・千代田区が十

月から施行することを決めた。公共の場所での歩きたばこを禁止する軽犯罪法の一部改正案も、国会に提出された。いずれも気配りとモラルを身に付けていけば、抑止できる行為だが、たばこ被害を受けるケースが目立つなら、法による規制もやむを得ない措置だ。

和歌山県の校内禁煙は、校門の外や隣接駐車場などを喫煙場所に設定し、愛煙家の教師対策をしている学校もある。だが、大半は全面禁煙を励行し、外来者にも協力

「株式会社」で活性化を

規制緩和

政府の総合規制改革会議が中間とりまとめで、公的関与の強い医療、福祉、教育、農業の四分野に株式会社形態による参入を認めるよう提

言した。これら四分野については「営利を呼び掛けて、たばこ締め出しの徹底化を図っている。煙害防止はまず、学校から」といつところだろう。教師たちの実践が、子供たちの禁煙教育や健康教育、喫煙に対する市民の意識改革に、大きな影響を及ぼすことは間違いない。

しかし、運営主体の形態に制限を設け、自由な参入を認めないと、競争が起これば、ぬるま湯につか

学校敷地内禁煙化

学校敷地内禁煙化への道(1)

2001年6月 静岡県で「こどもをタバコから守る会」発足

2002年4月 和歌山県で公立学校の敷地内禁煙化

2002年7月24日 静岡新聞社説「校内禁煙を当たり前」

2002年10月20日 「『公立学校敷地内完全禁煙化』推進サポート研究会」発足
(静岡大学教育学部・赤田信一助教授)

「守る会」「研究会」の活動などが報道され、新聞紙面に頻繁に「学校禁煙化」の見出し

2003年3月10日 県公立高校PTA連絡協議会・県PTA連絡協議会・県私学父母の会
から県教委へ要望書提出

2003年3月14日 県教委「学校における喫煙問題検討委員会」発足
→ 2003年11月11日 最終報告書提出